

日本の原風景「文化的景観」2010



全国文化的景観地区連絡協議会

はじめに

平成17年4月1日に施行された、文化財保護法の一部を改正する法律により、「地域地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」（文化財保護法第2条第1項第5号）を「文化的景観」として、新たに文化財の定義に位置付け、そのうち特に重要なものを「重要文化的景観」として選定し、所要の保護措置が講じられることとなりました。

これは、近年の画一的な土地開発や過疎化等の影響により、昔見たふるさとの風景がその姿を失うことに対し、そこで生活する人々をはじめ多くの人々が寂しさを覚えるという心の動きが背景にあると考えます。時代の変化に伴い、人々が物質的な豊かさから心の豊かさを求めるようになってきている証であるとも考えられます。

そこで、この魅力ある日本の原風景を地域で護り、次世代へと受け継ぐため、平成18年7月に全国文化的景観地区連絡協議会が設立されました。

文化的景観とは

棚田・段々畑・牧野・防風林・用材林・ため池・水路など、人々が連綿と続けてきた生活や生業において、地域の風土を活かして作り出してきた景観のうち、地域の人々の生活や生業を語る上で欠かせないものが文化的景観です。

その中でも景観法に基づく景観計画区域または景観地区に存在し、文化財的な価値が特に高いものは「重要文化的景観」として選定され、保護の対象となります。

重要文化的景観の選定基準

一 地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された次に掲げる景観地のうち我が国民の基盤的な生活又は生業の特色を示すもので古典的なもの又は独特のもの

- (一) 水田・畑地などの農耕に関する景観地
- (二) 茅野・牧野などの採草・放牧に関する景観地
- (三) 用材林・防災林などの森林の利用に関する景観地
- (四) 養殖いかだ・海苔ひびなどの漁ろうに関する景観地
- (五) ため池・水路・港などの水の利用に関する景観地
- (六) 鉱山・採石場・工場群などの採掘・製造に関する景観地
- (七) 道・広場などの流通・往来に関する景観地
- (八) 垣根・屋敷林などの居住に関する景観地

二 前項各号に掲げるものが複合した景観地のうち我が国民の基盤的な生活又は生業の特色を示すもので典型的なもの又は独特なもの

目次

はじめに		1
北海道平取町	アイヌと伝統の近代開拓による沙流川流域の文化的景観	3
岩手県遠野市	遠野 荒川高原牧場	4
岩手県一関市	一関本寺の農村景観	5
群馬県板倉町	利根川・渡良瀬川流域の「水場」景観	6
新潟県佐渡市	佐渡の文化的景観	7
栃木県宇都宮市	石のまち大谷の文化的景観	8
長野県千曲市	姨捨の棚田	9
富山県小矢部市	砺波平野の散村 宮島杉のある風景	10
富山県南砺市	砺波平野の散村	11
石川県輪島市	海の交易と間垣集落（仮）	12
石川県金沢市	金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化	13
福井県福井市	日本水仙群生地（越前水仙）	14
岐阜県岐阜市	長良川流域の文化的景観	15
岐阜県恵那市	坂折の棚田	16
静岡県浜松市	浜松の楽器・バイク製造工場群	17
滋賀県高島市	高島市海津・西浜・知内の水辺景観	18
滋賀県高島市	高島市針江・霜降の水辺景観	19
滋賀県近江八幡市	近江八幡の水郷	20
兵庫県朝来市	生野鉱山と鉱山まちの文化的景観	21
兵庫県稲美町	稲美のため池群	22
京都府宇治市	宇治の文化的景観	23
徳島県上勝町	檜原の棚田	24
高知県四万十市	四万十川流域の文化的景観 下流域の生業と流通往来	25
高知県梶原町	四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田	26
愛媛県宇和島市	遊子水荷浦の段畑	27
大分県日田市	小鹿田焼の里	28
佐賀県唐津市	蔭野の棚田	29
長崎県長崎市	外海の文化的景観	30
長崎県平戸市	平戸島の文化的景観	31
長崎県佐世保市	黒島の文化的景観	32
熊本県山都町	通潤用水と白糸台地の棚田景観	33
熊本県天草市	崎津の漁村景観・大江の農村景観・棚底の集落景観	34
全国文化的景観地区連絡協議会とは		35
全国文化的景観地区連絡協議会加盟団体一覧		36
寄稿団体一覧		37

重要文化的景観

北海道平取町

アイヌの伝統と近代開拓による さるがわ 沙流川流域の文化的景観

所在地 北海道沙流郡平取町

選定年月日 平成19年7月26日

特性と概要

平取町は北海道内においてアイヌの伝統が色濃く残る地域のひとつとして知られ、今日においても地域住民によるアイヌ文化の継承が活発に行われています。一方で近代以降は和人の移住に伴う農林業が展開され、トマト・和牛生産等の第一次産業を主体とした町の基幹産業に繋がっています。結果として、沙流川流域一帯に多文化の重層が織りなす地域性豊かな生活・生業の変遷があり、今日に至る文化的景観が育まれました。

取り組み状況と課題

保全の取り組みとしては、整備計画に基づいた周知資料等の基盤整備、関係団体との連携促進に重点を置いて文化的景観の価値向上に努めています。

課題としては、中長期的な整備計画の追加策定、民間企業等との協働、開拓農家建造物保存にかかる理解促進などがあり、今後の検討事項となっています。



チセの修景（二風谷区域）

地域のアイヌ文化振興に活用される場であると同時に、建築技術を継承していく意味合いもあります。背後の森林は、「イオルの森」として地域住民に活用されている里山です。
※イオルとは山奥・狩り場などを意味するアイヌ語



戦後開拓地（芽生区域）の文化的景観

デントコーン・ビート等の栽培や和牛生産の農地、集落等が広大な河岸段丘上に築かれています。背後には額平川による峡谷が形成されており、段丘面との対照を際立たせています。

重要文化的景観

岩手県遠野市

とおの
遠野 あらかわ
荒川高原牧場

所在地 岩手県遠野市

選定年月日 平成20年3月28日 平成21年2月12日追加

特性と概要

柳田國男（1875-1962）の『遠野物語』には、遠野に生きる人々の生活・生業、特に自然・信仰・風習に育まれた独特の文化的景観が描かれています。

遠野市の北東部に位置する荒川高原牧場は『遠野物語』の原点を成す「馬」「馬産」に関する代表的な景観地で、早池峰山周辺の準平原に広がる牧草地を利用しつつ、地域の基幹産業として継続的に営まれてきた独特の牧草に関する土地利用の在り方を示しています。特に近世及び近現代を通じて、採草のみならず、夏季に山へ家畜を放し、冬季に里の厩舎で育成する「夏山冬里方式」の放牧が採用されてきた点に特徴があります。

荒川高原牧場は、平成20年3月28日に国の重要文化的景観に選定され、さらに翌年2月12日には、馬産の守護神として重要な役割を担ってきた荒川駒形神社の境内・参道とその関連施設も追加選定されました。

取り組み状況と課題

現在は、『遠野物語』発祥の地である、土淵町山口集落の追加選定に向け、調査を行っています。山口集落は『遠野物語』誕生に大きくかかわった佐々木喜善（1886-1933）の生家のほか、『遠野物語』に登場する「ダンノハナ」や「デンデラ野」など、実際に話のもとになったものが多く存在する地域です。また、里山的な景観や水車小屋が残されているなど、多くの観光客が遠野をイメージする地として広く知られている地域です。



荒川高原牧場（馬の放牧風景）



山口の水車小屋

重要文化的景観

岩手県一関市

いちのせきほんでら

一関本寺の農村景観

所在地 岩手県一関市
 選定年月日 平成18年7月28日
 特性と概要

平成18年に重要文化的景観に選定された「一関本寺の農村景観」は、4年が過ぎようとしています。当市としては、この景観が、中世絵図に示された平泉中尊寺所縁の荘園跡で伝統的農村であることに鑑み、その構成要素や、本質的な価値を理解し、それらを活かしながら農村の伝統的な生業や営みや心象風景、雰囲気などあらゆる魅力を見い出しつつ、この希有な世界を将来にわたって残そうと地元の地域づくり推進協議会と共に取り組んでいます。

取り組み状況と課題

地元を中心に、この資産の保存と活用を意識したワークショップや各種イベント、少子高齢化を見据えつつ昔ながらの水利と微地形を尊重した景観農地整備や、グリーンツーリズム等の事業展開を行い、景観や歴史的な土地利用に配慮しつつガイダンス施設や駐車場等の整備を進めているところで、特に、食堂、物販、展示等からなるガイダンス施設は、今年から一部工事に入り平成24年のオープンを目指しています。この地域の整備については、整備指導委員会の提言により、伝統的農村を維持し営みを損なうことのないよう人工的な整備を極力排除し、自然な姿を残そうとしています。来訪者にとって、足元が悪く不便であることとなりますが、それが中世以来継承された荘園跡であることを理解していただき、時空を超え思いを馳せてもらえるよう村落環境の保存と整備を進めています。



田植え体験と荘園遺跡巡りを組み合わせた「お田植え祭」(おだえまつり)は恒例となっています。



平成21年7月に空き家だった重要建物を修復した休憩所「古曲田家」がオープンし、地元の女性たちが交代で対応しています。昼食は予約を受け提供しています。

群馬県板倉町

とねがわ わたらせがわ みずば
利根川・渡良瀬川流域の「水場」景観

所在地 群馬県邑楽郡板倉町

特性と概要

本町は、群馬県の最東端にあって、利根川と渡良瀬川に挟まれ、それぞれに埼玉県、栃木県と境を画くしています。町内には南側を東流する谷田川をはじめ、中小河川が縦横に走り、ほぼ中央部に沖積低地が広がっています。古代よりオオミズ（水害）と対峙する過酷な自然環境を有し、人々は、それを克服、あるいはそれと共生することを求められてきました。さらに人々は、居住の安定性や農業の生産性の向上を求め、不断の努力を重ね、豊かな穀倉地帯を築き上げ、「水場」^{註1}としての特有の文化を醸成させてきました。そして現在も、本質的な部分に関しては、「水場」における伝統を継承しています。さらに旧利根川および旧渡良瀬川の流路、そして近世初めに造られた囲堤など土地利用のあり方にも「水場」としての独特の景観を維持しています。

この「水場」の文化的景観は、低地開発の歴史を現在に伝える景観であるとともに、低地の自然に対応したくらしのあり方を継承する景観と言えます。

取り組み状況と課題

平成17～19年度に調査、平成20年度に保存計画の策定を行いました。しかし本年度策定された景観計画および景観条例の制定を受けて、現在、保存計画の改訂版を作成しているところです。

註1「水場」とは利根川流域の低湿地にあって洪水常襲地帯を指す呼名です。



谷田川めぐりの揚舟

先人の知恵を見直すために軒先から降ろした揚舟（水害時の避難具）の活用は現在、低地観光の一つとなっています。

後方は燃料採取のため掘上げ田の畦畔にオトコヤナギ（ヤナギ雄）を挿木しヤナギが大木となり、自然の宝庫となっています。



川田の稲刈り

近世文書に記載のある低地の耕作法の一つ掘上げ田での体験学習。左右のヨシの部分、掘削した部分（堀）です。

新潟県佐渡市

佐渡の文化的景観

所在地 新潟県佐渡市

特性と概要

佐渡は古くから「金の島」として知られ、かつての鉱山採掘の痕跡と、現在の人々の生活・生業が一体となった景観が広がっています。

島の南西部、西三川(にしみかわ)川流域一帯に位置する西三川砂金山は、平安後期の『今昔物語集』に載る佐渡国での砂金採取説話の舞台とされ、明治5年まで採掘が行われました。閉山後も人々はこの地に留まり、砂金採掘跡地を農地に転用した土地利用の変遷がうかがえます。

また、島の北西部の相川地区には、16世紀末から平成元年まで稼業し、江戸幕府や明治政府の財政を支えた相川金銀山があります。17世紀前半の最盛期には、全国から多くの人々が集まり、相川の人口は5万人に達したといわれ、佐渡奉行所を中心とした計画的な町づくりによって、当時としては世界的にも類例をみない大規模な臨海鉱山都市が形成されました。現在も、近世の鉱山遺跡・町割、近現代の鉱山関係施設が良好に残り、各時代の生活・生業のありようが見てとれます。

取り組み状況と課題

今後は、両地区の重要文化的景観選定申出に向け、調査や保存計画の策定を進め、景観計画・景観条例と連携しながら、市内の文化的景観の保存を図っていきたいと考えています。



砂金採掘によって掘り崩された斜面と現在の集落が一体となった景観



佐渡奉行所を中心に形成された町並み

栃木県宇都宮市

石のまち^{おおや}大谷の文化的景観

所在地 栃木県宇都宮市

特性と概要

関東平野の北部、栃木県宇都宮市の西部に大谷地域は位置しています。

大谷地域は、近代以降建築材料及び土木材料として全国的に普及した大谷石の産地です。「石のまち大谷」には、自然がつくり出した凝灰岩が広く分布し、長い歳月にわたって石と人間が関わることにより、自然美と人工美が融和している独特の景観が生み出されてきました。大谷石はそれぞれの時代の人々の用途に併せ加工され利用されてきました。これらの大谷石は現在の人々の生活の中にも息づいています。

取り組み状況と課題

平成16年度以降、重要文化的景観の選定に向けて、大谷学講座やシンポジウム、文化財めぐり、啓発リーフレットの配布等により、特に大谷地域の住民に対し普及啓発活動を行ってきました。また並行して大谷独特の景観としての調査・研究を行い、庁内協議や学識経験者の方々との協議に基づき、平成20年3月に3箇所の採石場の地区に係る保存計画を作成しました。

しかし、重要な構成要素は大谷地域に広範囲に分布していることから、対象区域の範囲の設定や、大谷地域限定の景観計画(重要地区)の策定等について、解決すべき課題を検討中です。

また、今後さらに大谷地域の住民が文化的景観を自分たちの手で保護していこうとする機運の醸成を図るために、新しい方法での普及啓発事業を検討しているところです。



カネイリヤマ採石場

休止中の採石場を、資料館として公開・展示しています。大谷石採掘技術に関わる歴史の変遷を見学できます。



カネホン採石場

現在稼働中の露天採石場です。採石場に隣接して石材加工所やコッパ(石材屑)の堆積場、山主(事業者)の住居兼事務所があります。

重要文化的景観

長野県千曲市

おぼすて
姨捨の棚田

所在地 長野県千曲市
選定年月日 平成22年2月22日

特性と概要

千曲市にある名勝「姨捨（田毎の月）」は、平成11年に棚田として我が国で初めて名勝として文化財に指定されました。本年「姨捨の棚田」64.3haが、重要文化的景観の選定を受けました。標高460～550mの急傾斜地に展開する約1,500枚の棚田をはじめ、棚田の水源として大切なため池の大池、棚田までの用水路としての役割をはたしている更級川、名勝指定地を含めた棚田の範囲が選定されました。姨捨の棚田は、今からおよそ500年ほど前の近世初頭から、沢水を利用して水田が造られ始め、江戸時代にはため池が整備され、また用水路が網の目のように整備された近世末期から近代にかけて、日本を代表する棚田の文化的景観を育みました。

取り組み状況と課題

姨捨の棚田においても、約二割ほどの耕地が荒廃化しているのが現状です。狭く屈曲した区画、農道も用水路も田越しで行わなければならないなど耕作は、大変な状況です。さらに、急傾斜の大きな畦の除草作業は、危険な重労働となっています。こうした耕作条件や耕作者の高齢化も重なり、棚田景観の維持は大変な現状です。重要文化的景観に選定されたことを契機に、耕作者はじめ、地域住民・市民、行政、さらに広範なみなさん方のご支援・ご協力を得て、棚田での農業の継続ができる仕組みを早急に構築していくことが、「姨捨の棚田」での大きな課題です。



眼下に善光寺平が一望に望める



小学校の参加もある棚田オーナーの田植え

富山県小矢部市

となみへいや 砺波平野の散村 みやじますぎ 宮島杉のある風景

所在地 富山県小矢部市

特性と概要

小矢部市は市名の由来となった小矢部川が市域を二分するように南北に流れ、西は「源平合戦火牛の計」で知られる倶利伽羅山をはじめとする丘陵が連なり、東には平野部が広がります。

この平野部では屋敷林に囲まれた住居が水田に点在する散村の景観が見られ、住居は「あずまだち」と呼ばれる漆喰の白壁に太い柱と貫が映える美しい外観と風格を持っています。

また、丘陵部はかつて杉の植林が盛んであり、特に市北部の宮島地区では「宮島杉」の名で知られ、真っ直ぐに伸びた円錐形の杉が丘陵斜面に規則的に立ち並ぶ美しい景観が見られます。「宮島杉」は市の木にも指定されています。



砺波平野の散村



宮島杉のある風景

富山県南砺市

と な み へ い や
砺波平野の散村

所在地 富山県南砺市

特性と概要

富山県の西部に広がる砺波平野は、庄川の形成した広大な扇状地である。その全域にわたって水田と屋敷林に囲まれた家屋が100～150mの間隔で点在する国内最大規模の散村景観を形成する。散村の広がり、砺波市を中心に、南砺市、小矢部市、高岡市南部におよんでいる(220km²、7000戸)。このような景観は中世末から近世初頭にかけて、平野部の微高地に入植した農民が自宅の周囲を開墾し農地としたことで形成されてきたという。「カイニヨ」と呼ばれる屋敷林は、強風や寒気、風雪あるいは夏の日射しなどの厳しい気象環境を緩和し、かつては燃料、建築用材、薬草などの需給を目的としていたが、一年中日陰となって好ましくないとか、大量の落葉の処理や高木の枝打ち、下草の除草など維持管理の負担が大きくて、現在の生活様式の変化などにより砺波地方でも急速に減少してきている。

取り組み状況と課題

現在は、砺波平野の散居村の広がる景観を生かした地域づくりが注目されるようになり、砺波平野の長い歴史と風土の中で育まれた小さな森である屋敷林を守って、次の世代に伝えていくため、散居景観保全事業を支援して行っています。「散居景観保全要綱」、「散居景観保全事業補助要綱」を定めている(H16.11)。



散居村夕焼け



屋敷林(カイニヨ)

石川県輪島市

海の交易と間垣集落（仮）^{まがき}

所在地 石川県輪島市

特性と概要

大沢地区および上大沢地区は、輪島市街の西南部に位置する西保地区にあります。この地区は能登半島の中でも比較的急峻な地形からなり、また日本海に面することから冬の季節風を直接受ける土地です。

間垣のある集落は、能登地方の海岸域において育まれた地域固有の伝統集落景観であったが、今日では大沢地区と上大沢地区において、よくまとまって継承されています。集落の構成要素のひとつとして間垣を眺めると、間垣はそれぞれに構造や素材が微妙に異なることもあって、様々な色調、大きな屏風を立てたような、変化に富んだ景観要素として体験されます。

取り組み状況と課題

間垣の荒廃地である棚田やニガタケ生育地を含め、重要文化的景観の選定を目指しています。



上大沢集落の遠望



立ち並ぶ間垣

重要文化的景観

石川県金沢市

金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化

所在地 金沢市広坂1丁目1番1号ほか

選定年月日 平成22年2月22日

特性と概要

現在の市街地に重なって認められる城下町の構造は概ね寛文年間に完成し、400年以上戦禍に遭わず、大規模な改変を加えられないままに現在に至っています。したがって、現在の金沢市街地の形態的な特徴は、城下町の計画性に基づくものであることがいえます。このため、当時の社会的・文化的背景に基づく計画の理念は、具体的には、城跡広場・緑地、都市水系としての河川・用水、武家地の地割の上に立地する近代和風住宅群等の有形の諸要素に反映されており、現在の都市景観に影響を与えています。

また、三代前田利常、五代綱紀^{つなのり}によって推進され、城下町によって育まれた近世文化は、今もなお、金沢市民の生活感覚の中に受け継がれています。たとえば、市内に残る多様な能舞台・茶室・庭園等の文化施設とともに、謡曲、茶道等の伝統が広く一般の暮らしに普及し、また、絹、紙等を使った繊細かつ洗練された数々の工芸品は現在も生活の中で使用されています。

このように、「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」は、城下町の都市構造を現在まで継承し、街路網や用水路等が現在の都市景観に反映されるとともに、城下町が醸成した伝統と文化に基づく独特の境界を生み出す貴重な文化的景観であります。

取り組み状況と課題

重要文化的景観の選定を機に、藩政期以来の都市構造や生活文化を継承しつつ、将来に向けて望ましい文化的景観形成の誘導を図るため、整備計画の策定に取り組んでいます。



浅野川と犀川によって、卯辰山・小立野・寺町の3つの丘陵・台地が形成されました。この起伏に富んだ地形を活かし、城下町が形成され、現在も形態的な特徴が継承されています。



藩政期に育まれた高度な伝統技術が継承されており、加賀友禅もその一つであります。

福井県福井市

日本水仙群生地（越前水仙）

所在地 福井市越廼地区南部一帯

特性と概要

福井市越廼^{こしの}地区は福井県の北西部、日本海に面しています。地区の多くは、海岸線近くにまで急峻な山の斜面が迫る越前海岸特有の地形です。こうした厳しい地形で栽培される越前水仙は、冬の季節風に耐えながら花を咲かせるこの地区独特の景観を創り出しています。

越前における水仙については、室町時代の記録「蔭涼軒日録」に越前国府の妙法寺から京都の相国寺を経て、将軍家に毎年水仙が献上されたという記録が残っており、この時期にはすでに越前で水仙の栽培が行われていた可能性が窺えます。

取り組み状況と課題

現在では、地区における主要な農業生産物となっており、「越前水仙」のブランドの名で切花として主に中京・関西方面に出荷されています。モノレールなどの機械化、農道の整備等により省力化を進めていますが、栽培者の高齢化が進んでいるのが現状です。

今後は、福井市景観基本計画の「海と夕日と水仙が映える海岸景観」の形成に向けて、群生地の保存調査を具体的に進めていく必要があります。



越前水仙群生地



越前水仙

岐阜県岐阜市

ながらがわ
長良川流域の文化的景観

所在地 岐阜県岐阜市

特性と概要

長良川は、白山山系を水源とし、岐阜県下の多くの支流を束ね、伊勢湾に注ぐ全長166kmの一級河川です。岐阜市は、ほぼ全てが長良川流域にあたり、河口までの距離が40～60km程で、濃尾平野の北端に位置します。岐阜市における長良川流域の文化的景観は、美濃山地と長良川扇状地が織り成す地勢を、長年に渡って巧みに利用することで形成されてきました。その特徴は「長良川水運を主軸とする流通・往來の構造」、「金華山麓に栄えた歴史都市の構造」、「長良川鵜飼を支える諸空間の構造」の3つの空間的構造にまとめることができます。それは、斎藤道三公、織田信長公が進めた領国経営や幕藩体制の諸施策の中で秩序づけられたものが素地となり、今日まで継承されてきました。相互に有機的に関連し重なり合って醸成された文化的景観は、近代以降、少なからず変化しながらも、今日もなお市民のアイデンティティに深く浸透しています。

取り組み状況と課題

岐阜市では、重要文化的景観の選定申出を目指し、過去2ヵ年、保存調査、保存計画案作成等を行ってきました。都市の中心部にあたる選定申出候補区域には、多くの市民が住み、集います。先祖の土地を守ってきた人もいれば、新しく居住地を見つけた人、歴史や自然を愛好する人々もいます。生業や文化を象徴する建物もあれば、モダンな住宅が建っていることも事実です。多様な価値観が展開される都市部において、重層的な土地の記憶の上に、何をどう重ねていくのか、数多くの課題があります。

長良川と金華山にいだかれた
岐阜のまち

天然の要害、金華山は岐阜城跡であり、鵜飼の舞台である長良川は流通・往來の主軸でした。金華山の西麓には惣構跡が残る旧城下町が位置します。



川湊として栄えた川原町の商家の蔵

中洲状の地形で、堤外地〔河川保全地区〕になっている当地は、高石垣で囲まれています。

岐阜県恵那市

さかおり 坂折の棚田

所在地 岐阜県恵那市中野方町3区

特性と概要

南東面する急斜面に拓けた石積みの棚田で、地区の中央には坂折川が流れ、最高部約 621 m、最低部約 430 m の間に 360 枚があります。平成 11 年 7 月に農林水産省『日本の棚田百選』認定、平成 15 年に第 9 回全国棚田（千枚田）サミットを開催しました。

取り組み状況と課題

平成 12 年に早稲田大学の中島峰広教授を委員長に、地元農家、自治会、学識経験者からなる検討委員会から答申された「恵那市坂折地区の棚田に関する整備・保全構想」を踏まえ、平成 15 年までに地区の地形条件や農家の意向を基本に 4 つのエリアに区分して各種の整備事業を実施しました。また、地元の保存会による都市住民と生産者の交流の場として稲刈り体験ツアーの開催や棚田米を原料にした銘酒「黒鋺」の販売、地元農業高校の保全活動、地元小学校全校児童による田植え等の体験学習なども行っています。平成 20 年度から、文化的景観の調査に取り組んでおり、市の景観計画や農業振興にかかわる各種施策との調整を図りながら、保存計画の策定に取り組んでいるところです。



棚田の夜明け



屋敷前の急傾斜地に展開する棚田

静岡県浜松市

浜松の楽器・バイク製造工場群

所在地 静岡県浜松市

特性と概要

浜松を南北に貫く天竜川は、流域に豊富な木材資源を擁し、また河川水は動力や工業用水として活用されてきました。郊外には工業用地に適した平野や台地が広がっており、「遠州のからっ風」とよばれる強風は、染物や木材の乾燥に役立ってきました。このような自然的特性のもと、浜松では古くから工業が発達してきました。明治から大正時代に、繊維、形染、楽器などの産業に支えられて順調な発展を遂げ、昭和におけるオートバイや自動車などの輸送機器関連産業の集積により、ものづくりのまちとしての確固たる地位を築いてきました。このような都市の発展に伴い、各企業の本社工場が建設され、生産活動が行われてきました。

取り組み状況と課題

近年、新たな市場を求めて、アジア諸国への企業の海外進出や、企業自らの規模の拡大及び生産の集約化を行うための工場の市外移転が進んでいます。特にここ数年は、全国の地方自治体で企業の誘致活動が盛んになっており、国内の有力企業が、関連下請け企業を伴い、各地域に進出・移転するケースも目立ってきています。こうした企業や工場の市外への進出・移転に対し、産業地の景観を構成する要素喪失の危機感が増しており、産業空洞化対策に最優先で取り組まなければなりません。



楽器工場近景



楽器店が並ぶ楽器通り

重要文化的景観

滋賀県高島市

 かいづ にしはま ちない
 高島市海津・西浜・知内の水辺景観

所在地 滋賀県高島市マキノ町海津、西浜、知内の各一部

選定年月日 平成20年3月28日

特性と概要

「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」は、日本海から琵琶湖を経て京都・大阪に向かう湖上・陸上交通網の結節点として、古くから多くの人や荷物が行き交い、とくに江戸時代は西近江路（北国海道）の宿場・港町として繁栄し、現在も当時をしのばせる町並みが残っています。

一方、アユ漁を中心とした漁業の拠点としても発展し、琵琶湖の環境に合わせて発達した、河川を簀で遮断し、遡上する魚を漁獲部に誘導する「ヤナ漁」やカラスの羽をつけた竿で魚を追い込む「オイサデ漁」等多くの伝統的漁法が継承されています。

自然的には、多雪地域であるとともに琵琶湖の幅の最も広い部分に位置することから、季節風による風や波の影響を強く受ける地域であるため、湖岸には江戸時代中期に築造された、波除けとなる高さ2.5メートル前後の石積みが約1.2キロにわたって続いています。

又琵琶湖に接し、湧水も豊富であるため、「イケ」と呼ばれる水場・共同井戸や湖岸に設置される「橋板」を利用した琵琶湖の水利用など、この地域独自の水をめぐる生活景観が形成されています。

取り組み状況と課題

伝統的な産業や文化が色濃く伝えられてきた地域ではありますが、近年の人口の減少や環境の変化によってそれらの維持・継承が困難になりつつあります。

このような中、平成20年に立ち上げられた、「海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会」を中心に、広報誌の発行や見学者の受け入れなど、文化的景観を活用したまちづくりの取り組みが進められています。



「波除けの石積み」



伝統的漁法「ヤナ漁」

滋賀県高島市

高島市針江・霜降の水辺景観

所在地 滋賀県高島市新旭町針江および旭の各一部
一級河川針江大川および琵琶湖の一部

特性と概要

「高島市針江・霜降の水辺景観」は、市の中央部を流れる安曇川^{あどがわ}の伏流水を主な起源とする“湧水”が各所から自噴し、豊かな水に囲まれたこの地域の特徴である「カバタ」や複数の水路を作り上げています。

「カバタ」とは、集落内の多くの家庭に現在も存在し使用され続けている“湧水”を活用した石造りの洗い場（台所）のことで、この地域の「水とともに生きる生活文化」を代表するものです。

また、湖岸地域一帯には、江戸時代から屋根材や肥料として人々に使用され、守り続けられてきたヨシの群生地が広がっています。

ヨシの群生地は、琵琶湖岸の代表的な景観として、さらには、琵琶湖に住む魚類の貴重な産卵場所として、環境の面からも意義のある景観として知られています。

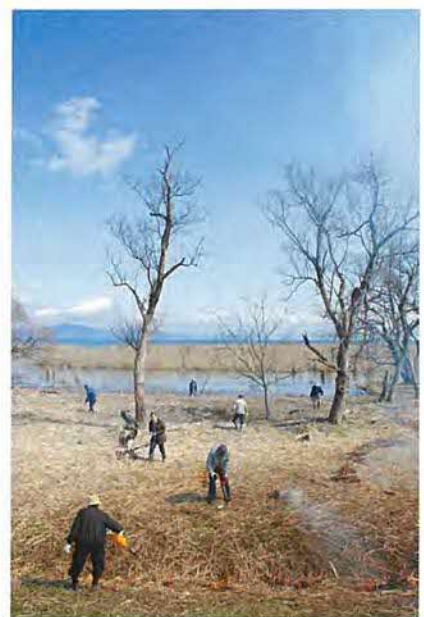
これら集落（カバタ）と水路、河川、ヨシ群生地そして琵琶湖は、湧水によって一体的につながり、生業活動をはじめ、「利用しながら手入れする」という、地域の人々が日常生活の中で深くかかわることによって維持され、地域全体で一つの文化的景観を作り上げています。

取り組み状況と課題

この地域では、住民自らが地域を守るために始められた、見学者の受け入れや案内ガイドを行う組織体制が確立され、また景観維持につながる環境保全型農業の取り組みも熱心に行われています。今後は、地域・行政・関係機関が連携しながら、これまで引き継がれてきた生活習慣を崩すことなく、だれもが「この地域に住みたい、住み続けたい」と実感することができるよう、住民の意向を十分に反映した形での保存、継承に努めていく必要があります。



湧水を利用した「カバタ」



琵琶湖岸のヨシ群生地「ヨシ焼きの風景」

重要文化的景観

滋賀県近江八幡市

おうみはちまん すいごう
近江八幡の水郷

所在地 近江八幡市白王町・円山町周辺

選定年月日 平成18年1月

特性と概要

近江八幡市の北部に広がる水郷地帯は、広大なヨシ地と複雑に張り巡らされた水路、整然とした水田、これらの産業を支えた集落（白王・円山）と里山で景観を構成しています。特にヨシ地は約400年間続いているヨシ産業を支えた場で、文化的景観の重要な構成要素となっています。近江八幡のヨシは、陸ヨシと水ヨシに別けられます。陸ヨシは陸地で育ったヨシのことで、品質がよく、上等なヨシです。水ヨシは水面から出てくるヨシのことで、ヨシといえばみなさんこちらのヨシのことを創造されるでしょう。しかし、このヨシは風波の影響を受けやすく、あまり品質の良いものではありません。近江八幡のヨシはほとんどがこの陸ヨシで、品質は抜群に良いものばかりです。また、白王地区にある、湖中に残る水田（権座）では、今でも盛んに農業が行なわれており、酒米も栽培されています。白王地区では、グリーンツーリズムの受け入れ態勢も出来上がっており、住民指導で景観を守る会も結成され、地域住民以外のサポーターも増えてきております。平成22年3月に文化的景観地区に隣接する安土町と合併をしましたので、今年度より文化的景観地区の拡大に向けた調査を行なう予定にしています。



「近江八幡の水郷」全景東より
寿福 滋 写真提供



湖中の水田権座より「収穫」の風景
北岸春喜 写真提供

兵庫県朝来市

いくの
生野鉾山と鉾山まちの文化的景観

所在地 兵庫県朝来市生野町
特性と概要

生野鉾山は、中世から金や銀、銅などの様々な鉾石が採掘されてきた大鉾山として400年以上の長い歴史があり、現在も錫精錬や半導体製造などの鉾工業が続けられています。「我が国初の近代化モデル鉾山として明治政府が開発した日本を代表する鉾山」であり、「今も生き続けている鉾山」として高い評価を受けています。

生野における鉾山まちの文化的景観は、我が国で唯一、中世から近現代までの鉾工業技術史及び鉾山生活史の変遷を証明することができる貴重な景観であり、顕著な普遍的価値を有しています。

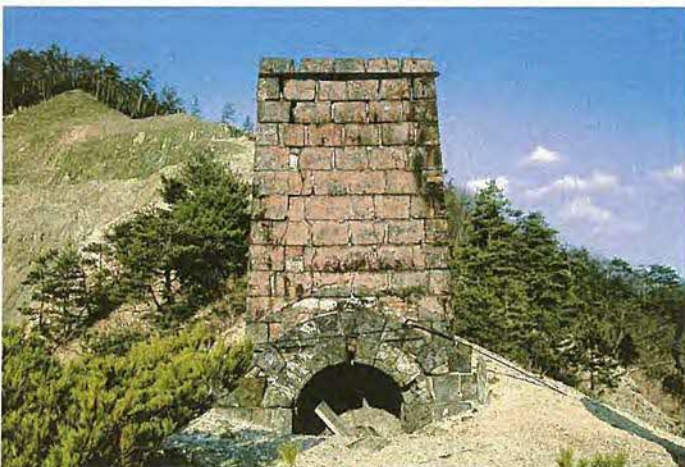
取り組み状況と課題

平成20年度に、重要文化的景観の選定を視野に入れた「生野鉾山近代化遺産群・保存活用基本方針」を定め、朝来市として生野鉾山の文化的景観や近代化遺産などを積極的に保存活用していく方針を打ち出しました。

これまで、シンポジウムの開催や生野鉾山を中心とする「朝来市の近代化遺産調査報告書」及び記録映像DVD「生野鉾山」の発行、パンフレットの作成・配布や説明会などの活動を進めており、平成22年度には文化的景観保存計画を策定する予定です。さらに、景観行政団体となり景観計画の策定など関連事業を推進し、重要文化的景観の選定を受けることとしています。



生野鉾山 金香瀬坑口と滝間歩



生野鉾山 太盛山頂煙突（カラミ石造）

兵庫県稲美町

いなみ 稲美のため池群

所在地 兵庫県加古郡稲美町

特性と概要

播州平野の東端にある印南野台地は、ため池がとて多い地域です。面積 34.96km²の稲美町は、この平坦な洪積台地の中央部に位置します。この地域は年間降雨量 1000mm 前後と少なく、地形上、河川もその水量も多くありません。そのため、古くから稲作の前提条件としてため池が重視されました。現在、ため池は町域に約 90 ヶ所あり、町域の 10%強が池の水面です。特徴としては、これらのため池は全て人工物で、長大な土坡堤体を持つ皿池が多いことです。中でも、満水面積約 49ha の加古大池は県下最大で、17 世紀後半の築造記録があります。町域は 18 世紀初めまでにほぼ開拓され、多くのため池がつくられました。そして近代の淡山疏水の完成を契機に、畑の水田化が進められてため池はさらに増え、昭和中期には 140 ヶ所以上ものため池が町域に分布していました。

取り組み状況と課題

ため池は、所有者・管理者である地元の各土地改良区によって維持管理されています。また、土地改良区で構成される「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」では、ため池を親水空間とした多角的な利活用も図られています。しかし、農業・農村の衰退が今後も続くと、ため池の必要性は低下し、景観にも影響を及ぼすと考えられます。



写真左寄りが加古大池で、築造当初から中堤を備えている。北西から撮影。



近代のため池が多い稲美町東部のため池群。手前は長法池。南西から撮影。

重要文化的景観

京都府宇治市

宇治の文化的景観

所在地 京都府宇治市
 選定年月日 平成21年2月12日
 特性と概要

京都府宇治市に所在する「宇治の文化的景観」は、平成21年2月12日に全国初の都市域の重要文化的景観として選定されました。宇治川が山間から京都盆地へと流れ出す谷口に位置し、川を中心とする豊かな自然に恵まれた宇治は、大化2年(646)の宇治橋の架橋以来、交通の要衝として発展してきました。こうした地理的条件を背景に、平安時代には貴族の別業都市として、江戸時代にはお茶のまちとして、近代には繊維工場の進出に伴い様々な商業施設が建ち並んだ繁華街として変化を遂げながらもその歴史が都市構造や街区に重層的に残されています。宇治を代表する生業である宇治茶は、碾茶や玉露などの高級茶をおもに生産しており、ワラや寒冷紗等の覆いを被せた覆下茶園が特徴的です。

追加選定申出予定区域の白川地区は、市内でも最も高い割合で残る覆下茶園が広がる里山景観で、藤原頼通の娘四條宮寛子が建立したと言われる白川金色院の坊跡の地形を継承しています。黄檗地区は明恵によって初めて宇治に茶が伝えられた地区と言われ、江戸時代には隠元により中国から煎茶文化が伝えられた地で、宇治地区とともに宇治の茶文化を構成する地となっています。

取り組み状況と課題

現在は白川地区の追加選定申出、宇治地区の保存整備計画策定に向けて取組みを進めています。



大弊神事(宇治地区)

毎年6月8日、新茶の季節が終わる頃に、宇治の街なかでは、大弊神事という祭が行われます。街区を練り歩いて大弊(写真左)に疫病を集め、最後には大弊を宇治橋から投げ捨てて浄化します。



茶畑(白川地区)

碾茶や玉露などの高級茶を作る場合、覆いを被せて日光を遮り、苦み成分であるカテキンを抑える必要があります。高級茶を主として生産している宇治は、覆下茶園の景観で有名でした。

写真手前から、露天園、遮光シートを被せた覆下茶園、ワラを被せた伝統的方式の本質茶園です。

重要文化的景観

徳島県上勝町

かしはら
檜原の棚田

所在地 徳島県勝浦郡上勝町

選定年月日 平成22年2月22日

特性と概要

檜原の棚田は、徳島県の中央やや東南よりに位置し、紀伊水道へと注ぐ勝浦川の上流部です。檜原地区の棚田景観は、集落景観と共に四方を標高700から900m級の山々に囲まれた小宇宙的な空間として存在しています。檜原の棚田は勝浦側上流部に典型的な地すべり地の「山間型棚田」であり、平均勾配1/4と厳しいため、1枚あたりの平均農地面積は約180㎡で、全国棚田百選の中でも1枚の平均面積が最も小さい棚田の一つです。文化10年(1813)に阿波藩により作成されたかしはらむらぶんけんえず檜原村分間絵図との比較により、現存の耕作地の形状分布が200年以上変化していないことが確認されています。また、絵図には水田、畑のほか、民家、里道、神社、小祠、山神などが描かれており、特に里道はほとんど現存し、生活道として使用されています。このように檜原地区では文化10年(1813)の檜原村分間絵図の集落要素が多く残る景観となっています。

取り組み状況と課題

現在では、過疎・高齢化、後継者不足の進展によって急速に耕作面積が減少しており、棚田景観の保全が大きな課題となっています。こうした現状に地元では、オーナー制による耕作継続や、ワーキングホリデイの活用による石積作業など、耕作継続の努力に加えて、里道、水車の復元等の景観整備や棚田ガイド養成のための棚田学び塾の開催など、棚田保全の取り組みを展開しています。



小さな棚田の1枚にも水がたたえられ、空と山の緑を写している。おだやかに田植えを待つ朝の風景。



急勾配、小さな面積の棚田の田植え

重要文化的景観

高知県四万十市

しまんとがわ
四万十川流域の文化的景観
下流域の生業と流通往来

所在地 高知県四万十市
 選定年月日 平成21年2月12日
 特性と概要

四万十川流域の文化的景観は上流、中流、下流域ごとに地形や気候に応じた土地利用や川との関わり方において独自性を保ちつつ、四万十川を介して一体的な繋がりを紡いできました。その最下流域に位置するのが四万十市です。市内における四万十川流域の文化的景観は、副題である「下流域の生業と流通往来」が示すとおり、豊かな生態系を誇る汽水域を中心とした漁労や、川を使った物資の流通を基軸に形成された景観で構成されています。とくに支流の黒尊川からその合流点にかけての黒尊～口屋内地区は支流と本流、中流と下流を絆ぐ結節点として特徴的であり、河口の集積港として発達し、流域と関西圏とを強く結びつけた下田地域は港湾として特徴的な景観を今に伝えています。

取り組み状況と課題

四万十川流域の文化的景観は、流域5市町が連携して取り組みを行い、平成21年2月に重要文化的景観の選定をうけました。河川の全域が重要文化的景観として選定されたのは初めての事例です。



下流域の四万十川

かつてせんば等の川舟や筏が往来した四万十川に、現在では観光用の屋形船が運行しています。



下田地域の町並み

四万十川河口の町下田は港町として栄えた集落で、土佐漆喰や水切瓦など高知の伝統的な建築技法の見られる建造物が多く残っています。

重要文化的景観

高知県梼原町

しまんとがわ

四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田

所在地 高知県高岡郡梼原町

選定年月日 平成21年2月12日

特性と概要

梼原町は高知県の西北部、愛媛県境に接し、清流四万十川の最上流部に位置し、梼原川、北川、四万川の3支流が町内を貫流しています。古くから伊予との交流も盛んで、津野山文化といわれるこの地域独特の文化を形成してきました。選定区域は、国有林を含み8,976ha余りと広大な面積です。地形は急峻で四国山地に抱かれた傾斜地が多く、河川沿いに棚田や小規模な集落が点在しています。それぞれの河川には沈下橋や木橋が掛かり、流域に広がる田畑は近隣の河川や山中で採取された大小の自然石を積み上げた素朴な石垣により維持されてきました。地域の生活は、全面積の91%を占める森林と切り離しては考えられず、南部には、大規模な国有林が広がっています。また南国にありながら冬季には数十センチメートルの積雪を見る厳しい自然環境の中で、古来から薪炭や製紙原料などの農・林産物の複合経営により生業をたててきました。しかし、過疎化や高齢化により、田畑や山林は荒廃の一途をたどっており、人々の生活も大きく変わろうとしています。この優れた山々の緑、溪谷の清らかな流れ、農山村の持つやすらぎ、「茶堂」に代表される人々の素朴なもてなし精神を活かし、一見過ごしてしまいがちな四万十川流域の宝を、後世に引継ぎ、地域の発展へとつなげてゆきたいと考えています。

取り組み状況と課題

梼原の歴史風土を育んできた、四万十川上流域の文化的景観の保全に務め、美しい国土と津野山文化を守り育て、歴史と文化の香り漂う町づくりを目指しています。



たけ やぶちん かばし
竹の藪沈下橋



かんざい こ
神在居の千枚田

重要文化的景観

愛媛県宇和島市

ゆすみずがうら
遊子水荷浦の段畑

所在地 愛媛県宇和島市
 選定年月日 平成19年7月26日
 特性と概要

宇和島市は愛媛県西南部に位置し、その沿岸には延々とリアス式海岸が続いていますが、その地形と温暖な気候とが相まって、柑橘栽培と魚介類養殖が国内屈指の規模で営まれています。遊子水荷浦はその中の小さな岬にある37戸の集落ですが、ここには近世から続く半農半漁の営みを今でも見ることができます。昭和40年代に柑橘や魚介類養殖が軌道に乗り始めるまで沿岸部の生活は過酷なものでした。鰯を追い求めるため狭小で水に乏しい地に居を構え、生をつなぐために急峻な斜面一面を開墾していく、山海に昼夜を問わず休む間もなく働き続ける人びとの姿は沿岸部ではありふれた風景でした。しかし、産業をはじめとした社会環境の変化がそのような風景を消し去っていきました。

取り組み状況と課題

かつてを彷彿させる段々畑が、水荷浦にのみ残った最大の要因は、住民の方々の先祖への強い畏敬の念があったからに他なりません。それは平成12年度に結成された地元保存団体「段畑を守ろう会」に引き継がれ、4月には公式HPを立ち上げるまでに至りました。(http://www.danbata.jp) 行政においては、平成20年度から4か年かけて、国・県の支援を受けながら、0.8haの休耕地の復旧に取り組んでおり、2haまでに落ち込んでいた畑地は5haまで回復する予定です。また地元農協で水荷浦産ジャガイモのブランド化が図られるなど、産官民が一体となった地域活性化に広がっています。



天と地と海のはざまに生きる
 遊子水荷浦の風景



休耕地の復旧状況

重要文化的景観

大分県日田市

おんたやき
小鹿田焼の里

所在地 大分県日田市

選定年月日 平成20年3月28日 平成22年2月22日追加

特性と概要

「小鹿田焼の里」は、集落景観区域14.1haと集落景観区域周辺の山林景観区域224.7haに大きく分けられます。集落景観区域は、江戸時代中期から窯業を営む皿山地区と農業を営む池ノ鶴地区に分かれています。窯業主体の皿山地区では、開窯以来、「小鹿田焼」の伝統技術を継承し今に伝えた事が評価され、平成7年に重要無形文化財としての指定を受けています。歴史的な土地利用が今に継承され、文化的景観としての集落景観が良好に残されている地区です。一方、池ノ鶴地区は狭隘な谷地において水の利用や土地利用の面で試行錯誤を繰り返し、農業や林業を中心とした小村形態が維持されてきた集落であり、この集落では棚田の石積や伝統的な屋敷地の構成が良好に保全され、周囲の山林は里山としての領域と植林された造林地が広がります。また、周囲の山林景観区域は、これまで自然公園法を始めとする土地利用に関する法律や景観計画等によって良好な景観が保全されてきました。両集落が成立する過程では、水や土、木等の地域資源との関わりが必要不可欠でありますので、今後も深い関係性が継続されることが必要でありますし、水源涵養の面でも大きな役割を担っております。

取り組み状況と課題

現在、棚田の整備を計画しておりますが、基本的な考えとしては、保存方針と整備方針を尊重しながら、「農業活動を維持するために施された棚田の形態・意匠等の独特又は典型的であることを維持し、技術や素材等の固有性を保護しながら、将来、農業を継続するために必要な整備を行う。」という考えで整備を検討しています。



唐臼と水路



棚田

重要文化的景観

佐賀県唐津市

わらびの
蕨野の棚田

所在地 唐津市相知町平山上蕨野

選定年月日 平成20年7月28日

特性と概要

佐賀県唐津市相知町内に存在する「蕨野の棚田」は、八幡岳(標高763m)北麓の5つの谷筋に造られた棚田で、急傾斜地に約36ha、691枚の棚田が現存する。棚田の石積みは野面積みを基本とし、平均の高さは3~5m、高い箇所では8.5mにもおよびます。棚田の形成は江戸後期まで遡ることができますが、現存する棚田の大半は、明治時代から昭和20年代までに造られたものです。

この「蕨野の棚田」は、石垣棟梁による石工の技術や「手間講」と称される、地区民による伝統的な協働作業精神の工夫と努力が結集して造られたものであり、現在の営農や景観を存続させてきた大きな要因となっています。

取り組み状況と課題

平成20年5月に「蕨野の棚田を守ろう会」が設立すると共に、平成22年3月にはNPOに認定され、景観法による景観整備機構等の制度を活用しつつ、営農活動のサポートや広報活動などを行っています。



早苗の緑が眩しい蕨野の棚田



南川原の8.5mの高石垣

長崎県長崎市

そとめ 外海の文化的景観

所在地 長崎県長崎市外海地区（旧西彼杵郡外海町）

特性と概要

西洋人主体による土地改変の痕跡が残る集落

外海地区は、16～19世紀にキリスト教弾圧が行われた際、数多くの潜伏キリシタンが住んでいた地域です。また、19世紀末、開国の後に信仰が自由になったのを契機に住民の多くがカトリックに復帰したことから、フランス人宣教師が活動の拠点とした地域でもあります。その宣教師は、布教のみならず住民の生活向上のための福祉・授産活動に積極的に取り組み、様々な事業を行いました。現在も集落内には教会を中心に事業の痕跡を示す当時の建造物と、カトリック関係団体が運営の主体となった老人ホームや病院、託児施設などが多数見られ、宣教師の精神を受け継いだ活動が継続して行われている景観を見ることができます。

取り組み状況と課題

現在の取り組みとしては、宣教師がなぜここを選びこのような活動を行ったのかを検証するため、この地区が持つ歴史的背景を調査しています。また、近世末期と宣教師が活動した後の集落構造の比較や生業、生活環境の変化等を中心に、西洋人宣教師によって何がもたらされたのかを調査しています。



教会堂を中心とした集落景観



外国人宣教師がもたらした授産事業の痕跡

重要文化的景観

長崎県平戸市

 ひらどしま
 平戸島の文化的景観

所在地 平戸市春日町、獅子町、根獅子町、宝亀町の全域、主師町、坊方町、下中野町、大石脇町、木場町、迎紐差町の各一部

選定年月日 平成22年2月22日

特性と概要

島嶼という制約された条件の中で生活を継続してきた集落や棚田などによって構成される文化的景観で、石垣や石壁を有する伝統的家屋、生業を示す海から山間部まで連続する棚田群などが景観の特徴を決定づけています。

また、これらの集落には16世紀のキリスト教布教に起源を持つ信仰形態が現在も継続しており、家屋に納戸神という御神体を祀るほか、聖地や殉教地を内包する独特の景観を有しています。

平戸において現在の景観は、16世紀から続くキリシタン文化に基づく景観形成のプロセスとその要因に比重をおいて分析することで、集落の個性が明らかになると考えられます。

取り組み状況と課題

平成22年5月21日に追加選定の答申がなされました。今年度から整備活用計画の策定に向けた取り組みを行います。文化的景観は、指定文化財などの重点保護とは異なる価値の考え方や保護の手法が可能であり、地域の人々による具体的な保護のあり方を可能にするものと考えます。

また、各種公共事業（道路整備など）や生産調整など、同じ行政間で異なる方向性の施策をどのように調整するかが課題であり、国や都道府県との調整もあるため、すぐに答えが出る問題ではありませんが、大きな視点と大きな枠組みで調整を図る必要があります。



海から連続する棚田（春日町）



石壁を有する建造物（獅子町）

長崎県佐世保市

くろしま 黒島の文化的景観

所在地 長崎県佐世保市黒島町

特性と概要

佐世保市黒島は本土から12kmの海上に浮かぶ離島です。海洋性気候のため本土に比べて暖かく、亜熱帯地域の植物が自生し、いくつかの種は黒島附近が分布の北限となっています。このような環境の黒島には、14世紀ごろに倭寇に関わる可能性の高い集落が成立し、江戸時代の18世紀から19世紀にかけて西彼杵半島の外海地区を中心とする地域から潜伏キリシタンが入植して島の各所に集落を形成しました。入植者たちは、密集した集落を形成せずに各戸が独立した散村形式の集落を作りました。家々には島の亜熱帯植生を活用した独特の防風林があり、そのほかにも集落の内外や用途による樹木の使い分けが確認されています。また土地の利用状態も海岸から防風林、家屋、畑となっており、海岸部から内陸に向かって土地を開いていった過程が良く残されています。

取り組み状況と課題

平成20年度から本格的な調査を行っており、現在は調査を一部継続しながら保存計画の策定を行っています。土地の管理や後継者問題などの課題を解決するための体制構築が急務であり、地元住民と連携を図りながらの体制構築を目指しています。



海から内陸に向かう伝統的な土地利用



アコウの防風林に囲まれた屋敷

重要文化的景観

熊本県山都町

つうじゅんようすい しらいとだい ち
通潤用水と白糸台地の棚田景観

所在地 熊本県上益城郡山都町

選定年月日 平成20年7月28日 平成21年7月23日追加 平成22年2月22日追加

特性と概要

白糸台地は、阿蘇南外輪山の末端にある火砕流台地で、南側は熊本県の代表的な一級河川である緑川を挟んで九州山地に面しています。台地は四方を河川に囲まれており、農業用水に困窮した地域住民の要望を受けた矢部手永（細川藩政における行政区画、現在の市町村に該当。）惣庄屋布田保之助が中心となって、安政元年（1854）に国指定重要文化財である水道橋「通潤橋」を含めた通潤用水が建設されました。この結果、約73haの新たな水田が開かれ、棚田の景観が育まれました。

取り組み状況と課題

山都町では、平成19年度より国庫補助を受けて保護推進事業を開始し、平成20年7月28日（第1次）、平成21年7月23日（第2次）、平成22年2月22日（第3次）に3度の選定を受け、現在台地のほぼ全域が重要文化的景観となっています。平成21年度においては、保護推進事業の端緒となった県農政部による通潤用水下井手水路の改修整備を文化庁事業で実施し、その一部が22年3月末に竣工しました（施工延長約240m）。棚田の利用と適切な水路管理によって生息する淡水魚アブラボテを中心とした水生生物相は、文化的景観を構成する貴重な要素であることから、自然と景観に配慮したコンクリートを用いない「近自然工法」で改修を行っています。同時に、管理の効率化を目的とした作業用道路を水路沿いに敷設する計画です。本年度においても、改修整備事業が継続中であり、詳細設計を経て平成23年3月の竣工を予定しています。



通潤用水下井手11号水路 改修前



通潤用水下井手11号水路 改修後

熊本県天草市

さきつ 崎津の漁村景観・おおえ 大江の農村景観・たなそこ 棚底の集落景観

所在地 熊本県天草市

特性と概要

天草市は、崎津、大江、棚底の特色ある地域景観を保存するため、重要文化的景観の選定を目指しています。崎津は、崎津教会を中心とした穏やかな漁村景観がひろがります。沿岸には、海に突出した「カケ」と呼ばれる漁師の作業施設が点在します。また、密集した集落は、家屋と家屋の間に「トウヤ」と呼ばれる小路が海に向かって延びています。この地には400年程前にキリスト教が伝来し、江戸時代は潜伏キリシタンとして信仰が継続され、明治時代に復活し教会が建てられます。大江は、大江教会を中心とした段畑の続く農村景観がひろがります。丘陵に点在する農家は小さな里道で結ばれ、各家の近くには墓地があります。また、赤土の畑は、千枚岩と呼ばれる変成岩で段畑が開かれ甘藷や小麦が作付けされています。地区内には、江戸時代の潜伏キリシタンの伝承を伝える史跡が点在し、歴史の息づく農村景観を形成してします。棚底の集落は、冬に後背山の倉岳から吹く「倉岳おろし」から家屋を守るため、防風石垣を巡らせています。石垣の高さは2段〜3段程で、倉岳から長年に渡り土石流として扇状地に堆積した石が、畑、水田、宅地などの造成時に掘り起こされて利用された物です。また、扇状地には棚田が形成され、地下の伏流水を利用した「コグリ」と呼ばれる地下用水路が築かれています。棚底の集落は、地勢と気象が作り出した景観です。



崎津教会を中心にキリスト教の伝統的文化により形成されている漁村景観



大江教会を中心にキリスト教の伝統的文化により形成されている農村景観



地勢と気象の影響を受けて作られた「防風石垣」
「コグリ」の集落景観

全国文化的景観地区連絡協議会とは

かつて私たちは物豊かに暮らす暮らすことが近代的であるとひたすら信じ、生産性の向上という美名の下、多くの貴重な景観を傷つけて失ってきました。

私たちはこの過去への反省に立ち、美しい景観を保存・活用することを求められているのではないのでしょうか。

現在、重要文化的景観が文化財の一つとして位置づけられました。その保護の取り組みは始まったばかりであります。

本協議会は文化的景観の保存に関する各種の課題を共通認識としつつ、相互に情報交換を行い課題解決に取組み、地域の住民と連携し、文化的景観のあるべき姿の構築のための先導的役割を果たすことを目的としています。

全国文化的景観地区連絡協議会規約

(名称)

第1条 本会は全国文化的景観地区連絡協議会：略称「文景協」（以下「協議会」という）という。

(目的)

第2条 協議会は、加盟する団体が共同して文化的景観の保存整備に関する調査研究、施策の推進並びに情報交換を行い、もって文化的景観をはぐくみ地域住民の生活と文化の向上に資することを目的とする。

(組織)

第3条 協議会は、原則として重要文化的景観選定地区を有する自治体及びその選定を目指している自治体をもって組織する。

2 主旨に賛同する都道府県は、特別会員として加盟することができる。

3 文化的景観の調査、研究、保存、管理を行う公的な団体は準会員として加盟することができる。

(事務所の所在地)

第4条 協議会の事務所は、会長自治体に置く。

(役員)

第5条 協議会に次の役員を置く

会長 1名
副会長 若干名
理事 若干名
監事 2名

- 2 役員は、会員の互選により選任する。
- 3 役員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。
- 4 役員は、その任期が満了したときにおいても、後任者が就任するまでの間は、その任務を行うこととする。
- 5 必要に応じ、協議会に顧問及び参与を置くことができる。
- 6 顧問及び参与は会長が委嘱する。

(役員の仕事)

第6条 会長は協議会を代表し、その会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

3 理事は協議会の計画並びに運営に関することを審議する。

4 監事は会計その他の事務を監査する。

5 顧問及び参与は、会議に出席して意見を述べることができる。

(会議)

第7条 協議会の会議は総会並びに役員会とする。

2 会議は会長が召集し、会議の議長は会長がこれを行う。

3 計画、予算決算並びに規約の改正は総会の議決事項とする。

(委員会の設置)

第8条 必要に応じ、協議会に委員会を置くことができる。

2 委員は、会員の中から役員会の承認を得て会長が選任する。

3 委員会は、委員長1名並びに委員若干名により構成する。

4 委員は役員会に出席し、意見を述べることができる。

(経費)

第9条 協議会の運営に要する経費は、加盟団体の負担とする。負担金の額及び負担方法は、役員会において策定し、総会の承認を得るものとする。

(事務局)

第10条 事務局は会長が指名する。

(その他)

第11条 この規約に定めるもののほか、必要な事項は会長が定める。

附則 この規約は平成18年7月18日から適用する

附則 この規約は平成21年7月9日から適用する。

全国文化的景観地区連絡協議会加盟団体一覧

No.	都道府県名	市町村名	首長名	備考
1	京都府	宇治市	久保田 勇	会長
2	岩手県	一関市	勝 部 修	副会長
3	石川県	金沢市	山 出 保	副会長
4	愛媛県	宇和島市	石 橋 寛 久	副会長
5	長野県	千曲市	近 藤 清一郎	理事
6	高知県	梼原町	矢 野 富 夫	理事
7	大分県	日田市	佐 藤 陽 一	理事
8	新潟県	佐渡市	高 野 宏一郎	監事
9	熊本県	天草市	安 田 公 寛	監事
10	滋賀県	近江八幡市	富士谷 英 正	顧問
11	岩手県	遠野市	本 田 敏 秋	
12	群馬県	板倉町	栗 原 実	
13	栃木県	宇都宮市	佐 藤 栄 一	
14	富山県	小矢部市	桜 井 森 夫	
15	富山県	南砺市	田 中 幹 夫	
16	福井県	福井市	東 村 新 一	
17	岐阜県	恵那市	可 知 義 明	
18	岐阜県	岐阜市	細 江 茂 光	
19	静岡県	浜松市	鈴 木 康 友	
20	滋賀県	高島市	西 川 喜代治	
21	兵庫県	朝来市	多 次 勝 昭	
22	兵庫県	稲美町	古 谷 博	
23	長崎県	長崎市	田 上 富 久	
24	長崎県	佐世保市	朝 長 則 男	
25	熊本県	山都町	甲 斐 利 幸	
26	埼玉県		島 村 和 男	特別会員
27	北海道	平取町	川 上 満	新規加盟
28	石川県	輪島市	梶 文 秋	新規加盟
29	徳島県	上勝町	笠 松 和 市	新規加盟

寄稿団体一覧

北海道平取町教育委員会文化財課（町立二風谷アイヌ文化博物館）
岩手県遠野市文化政策部文化課
岩手県一関市教育委員会生涯学習文化課
群馬県板倉町教育委員会生涯学習係
新潟県佐渡市世界遺産推進課
栃木県宇都宮市教育委員会文化課
長野県千曲市教育委員会生涯学習文化課
富山県小矢部市教育委員会文化スポーツ課
富山県南砺市教育委員会文化課
石川県輪島市教育委員会文化課
石川県金沢市歴史遺産保存部歴史建造物整備課
福井県福井市教育委員会事務局文化課
岐阜県岐阜市教育委員会事務局社会教育課
岐阜県恵那市教育委員会文化課文化財保護係
静岡県浜松市生活文化部文化財課
滋賀県高島市教育委員会事務局文化財課
滋賀県近江八幡市総合政策部地域文化課
兵庫県朝来市教育委員会社会教育課
兵庫県稲美町教育委員会教育政策部文化課
京都府宇治市都市整備部歴史まちづくり推進課
徳島県上勝町教育委員会
高知県四万十市教育委員会生涯学習課
高知県梶原町教育委員会生涯学習課
愛媛県宇和島市教育委員会文化課文化財保護係
大分県日田市教育委員会文化財保護課
佐賀県唐津市教育委員会文化課
長崎県長崎市文化観光部文化財課（企画財政部世界遺産推進室）
長崎県平戸市教育委員会文化遺産課
長崎県佐世保市教育委員会社会教育課
熊本県山都町教育委員会生涯学習課
熊本県天草市教育委員会文化課

協議会加盟団体および今年度の大会参加市町村に資料提供の依頼をしたところ、上記の方々より寄稿いただきました。

全国文化的景観地区連絡協議会
日本の原風景「文化的景観」2010

平成 22 年 (2010) 7 月

発 行 全国文化的景観地区連絡協議会
編 集 岩手県遠野市文化政策部文化課



岩手県遠野市附馬牛町荒川高原牧場